# 高齢化の進行で急がれる世代交代

## 八田・宮園支部

八田・宮園支部は、中区の八田、宮園、深阪などの地域を担当しています。

2009年、たまり場「中区ともの家」の名称で開所し、友の会では初めてのたまり場です。当時の話を聞きますと、半年ぐらいはほとんど人が寄らず、ガラス戸越しに覗く人がいる程度でした。それで半年ほどは、毎月ビラを3000枚ほど撒き、それと習字、絵手紙、小物づくり、折り紙などが得意な会員さんを中心に、サークル班を立ち上げ、少しずつ会員さんが増えていきました。

2013年に4支部に分割して、八田・宮園支部に名称を変更して今に至っています。残念ながら、サークルの中心で活動していた方で亡くなられた人もいます。

コロナ禍で周年祭、バザーなどが中止になり、また班会の参加者も少なくなっています。中区全体で取り組んでいる中区「友の会フェスタ」の中止は、地域と支部の交流する場がなくなり、残念です。認知症、高血圧、薬などの健康学習会もしました。「会員さん訪問」、「お元気ですか電話」にも取り組んでいます。高齢化が進み、これからの課題として世代交代が急がれます。

（事務局　西岡次夫）

▲友の会フェスタ

「ともの家」6周年▲▶

## 部支紹介⑤

# ワイワイと互いに語れる日を楽しみに

## 浜寺支部

浜寺支部は、この2021年で設立20年、集まる場所のたまり場「風車」ができて5周年を迎えました。

世話人一同、「夏前から秋に向けて楽しい催しをやろう」と意気込んで話をしていたのですが、如何せん、新型コロナ感染拡大の影響で、ことごとく開催できなくなってしまいました。

催しも中止になり、会員の皆様とも顔を合わすことができず、互いに心配をしています。

高齢の方が多いものですから、お声をかけながら、「安心して暮らせる日常を何としても取り戻せればいいな」と思っています。

夏前の訪問の時には、「日帰りバス旅行を楽しみにしているよ」とお声を聴かせていただいています。少しでも早く皆さんとまた前のように、元気に大声を出して交流できることを楽しみにしています。

（支部長　藤田敦夫）

**またやりたい！**

**1年間できてません！**

## 医療の現場から Vol.18

相談室に来所された青白い顔色のAさんは、ぽつりぽつりとこれまでのことを話してくれました。

他の院所に通院していたけれど、3年ほど前に中断。きっかけは、国保資格証の発行でした。自営業ですが、体調不良で店を閉めることが増え、収入が減り、保険料が支払えなくなったそうです（国保資格証を発行されると、受診や処方は一旦、10割負担で支払うことになります）。持病の薬はなくなり、体調不良を自覚しながら我慢を重ねたけれど、いよいよ限界を感じて、連絡をくれたそうです。すぐに診察予約を入れ、保険加入手続きと無料低額診療制度の申請をしていただきました。

「通院を再開いただけて、一件落着」と思いきや、いつも悔しく思うことがあります。無料低額診療の適応は通院の場合、医療費のみで、院外処方された調剤薬局の薬代は無料にすることができないのです。糖尿病や循環器疾患、リウマチなどの薬代は高額で、月に数千円以上かかります。通院費よりも高額なので、「医療費だけ無料にして貰っても意味がない。薬代の方が高いんです」と申請を足踏みする方もいます。

### 〝無低〟の適応は医療費のみで、薬代は無料にならない矛盾

自治体の独自制度として、薬代助成を行っている市もありますが、堺市にはありません。「受診はできても、治療に必要な薬は無料にならない」という矛盾が残ります。無料低額診療制度が開始したころは、多くの院所で院内処方でしたが、1974年より政府の医薬分業政策が進められ、現在は診療所の8割以上が院外処方です。無料低額診療の適応を保険調剤薬局までに拡大するよう、求めていく必要があります。

（鳳クリニック相談室　田中千賀）

## 支部だより

# 第16回支部総会

## コロナ禍で参加者しぼり

### 大浜支部

大浜支部16年の歴史の中で、毎年みんなで楽しめる総会を開くのが恒例になっていますが、今年はコロナ禍で参加者をしぼり31人で第16回大浜支部総会を7月24日に開きました。

まず最初に、歌体操サークルの大阪弁のラジオ体操で心と体をほぐしました。活動報告、会計報告、新年度の活動方針、新会則の提案があり、すべての参加者で確認されました。新しい世話人が承認され、新世話人の紹介と、新世話人を代表して一岩さんからの挨拶で総会の第1部を終えました。

第2部は、沖縄民謡「花」「鳩間節」、新舞踏「新内しぐれ」「忍び傘」の美しい踊りに拍手喝采。歌体操のメンバーと飛び入り参加で、「炭坑節」「河内男節」を元気よく踊り、会場の手拍子で大いに盛り上がりました。

（事務局　達　務）